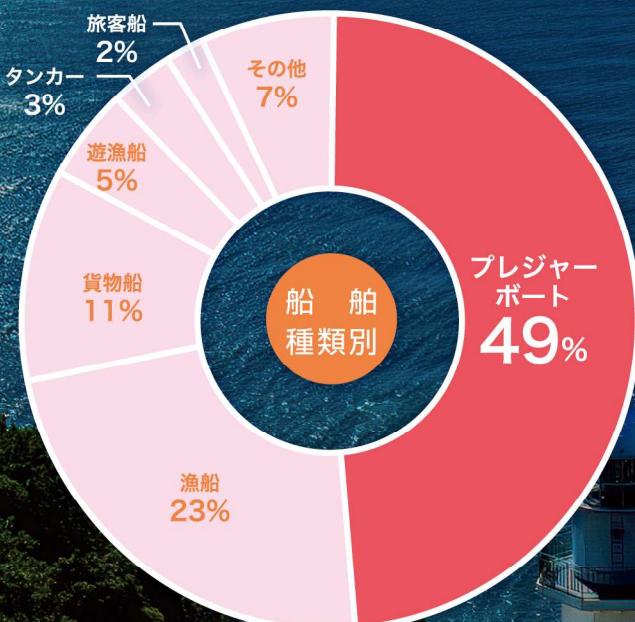


プレジャーボートの安全運航のために

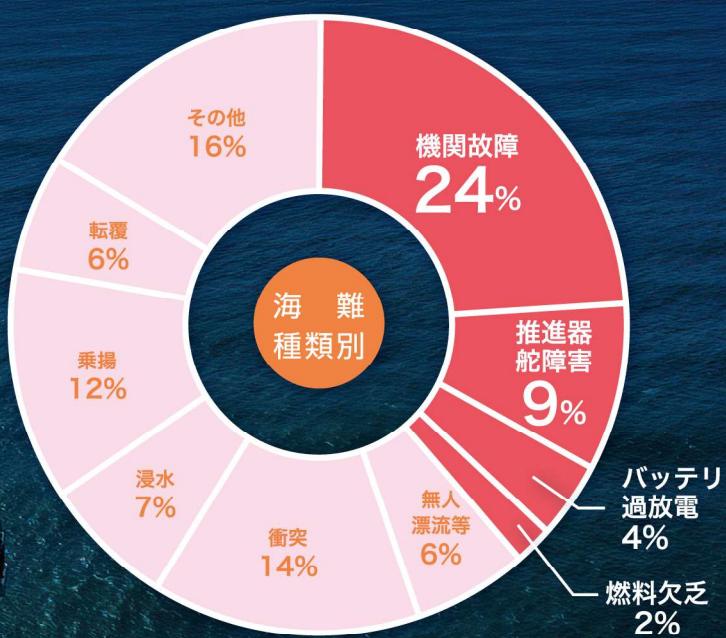
# プレジャーボート海難の 3分の1以上が 故障や点検不足によるものです

プレジャーボート  
海難発生状況  
(令和5年)  
合計891隻  
海上保安庁資料(令和5年)より

海難はプレジャーボートが全体の49%を占めています。プレジャーボートの海難の39%が故障や点検不足によるものです。これらはメインテナンスや発航前検査で十分に防止が可能です。



令和5年の海難発生隻数は1798隻です。



海難種類別では、39%が故障、点検不足によるものです。

ATTENTION  
01

中古艇は特に整備が重要です。

ATTENTION  
02

定期的なメインテナンス、発航前検査を実施しましょう。

ATTENTION  
03

整備は機関メーカー指定の業者に依頼しましょう。

ATTENTION  
04

発航前検査の義務違反は行政処分の対象となります。

プレジャーボートの安全運航のため、以下のガイドをご利用ください。

## 日本小型船舶検査機構

エンジン種類別に、日常的に行っていただきたい点検・整備のポイントをわかりやすくまとめています。

メインテナンスガイド JCI 検索



船内機



船外機



PWC

## 日本マリン事業協会

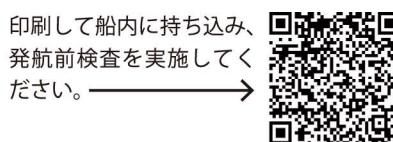
艇体の取扱説明書から、使用（航海）前後の点検の部分を抜粋したものがご覧いただけます。

日本マリン事業協会

検索



使用前後の点検項目



印刷して船内に持ち込み、  
発航前検査を実施してください。————→

発航前検査チェックリスト

実際に海難事故に遭ったユーザーに実施したアンケート調査から、多い要因とその注意事項を以下に記します。

## 燃料系

油水分離器にたまつた水や、  
燃料フィルタの目詰まりに注意しましょう。



燃料の残量を確認しましょう。

燃料計の過信は禁物です。  
日々の燃料消費率、  
給油量を把握しましょう。



## 始動系

バッテリの電圧、液量を点検しましょう。

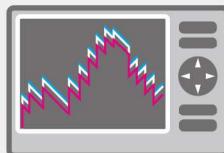
バッテリは定期的に交換しましょう。



出展元：(一社) 電池工業会

主機停止中には電気機器を使用しないように  
しましょう。

例：釣り中：魚群探知機使用



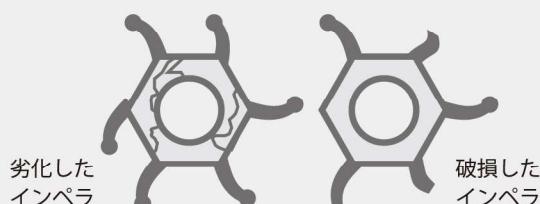
例：花火見物中：室内灯、  
室外灯点灯



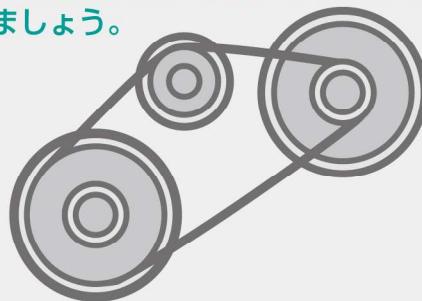
## 冷却系

海水ポンプインペラの損耗に注意しましょう。

海水ポンプインペラは定期的に交換しましょう。  
船外機の場合、検水口からの水の出方が悪くなります。



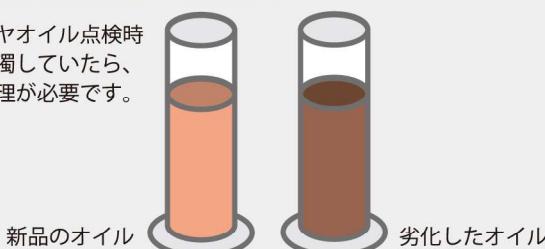
Vベルトの張り具合、摩耗、ひび割れなどを  
点検しましょう。



## 機関系

エンジンオイル・ギヤオイルの量と  
状態を点検しましょう。

ギヤオイル点検時  
白濁していたら、  
修理が必要です。



コントロールケーブルの操作力、がたつき、  
錆びなどを点検しましょう。

ケーブル露出部の割れ、錆び。



## 定期交換時期

下記は目安です。詳しくは、搭載機関の取扱説明書に従いましょう。

### ディーゼルエンジン

燃料フィルタエレメント	200 時間毎
エンジンオイル	200 時間毎
オイルフィルタ	200 時間毎
冷却水	600 時間毎
防食金属	半減したら交換
Vベルト	異音、摩耗等必要に応じ交換
共通	
バッテリ	3 年毎
コントロールケーブル	2 年～5 年毎（使用頻度による）

### 船外機

燃料フィルタエレメント	200 時間又は 2 年毎
エンジンオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
オイルフィルタ	200 時間又は 2 年毎
ギヤオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
防食金属	半減したら交換
ウォーターポンプインペラ	1 年毎

